



鶴岡悦子さん

(スキンケア カウンセラー)

「何かあっても
美と健康を
支えてくれます」



【化粧ポーチの中身は……】

“スキンケア”“メイク”“ヘルス”の
三つの小袋が入っています



1.

【スキンケア】

1週間過ごせる
アイテムと量を常備



2.

【メイク】

いろいろ持ち歩かず
必要最低限のものでOK



3.

【ヘルス】

玄米発酵商品と除菌シートで
健康と衛生をケア

鶴岡さんの化粧ポーチは、用途別に三つに分かれています。「スキンケア」は全身洗えるソープにリンスのいらないシャンプー、ローションとクリームサンプルが入っていて、もし災害に巻き込まれても大丈夫なラインナップ。メイクアイテムは、リタッチにも使うファンデーションや口紅など、スキンケア効果に優れたものばかりです。ヘルスの小袋には健康を壊さないための予防アイテムを入れています」

「見映えをよくしよう、メイクを整えよう」という目的で、化粧ポーチを持っているわけではありません。なぜなら、くずれたところにファンデーションを重ねづけするようであつては、肌を老化させるのと同じことですから。そもそも健康な肌はメイクがくずれません。傷んでいるからくずれるのです」

長年の経験から、独特の化粧ポーチ論を持つに至った鶴岡さん。必要なものは自ずと決まってくるのだとか。

「日中に肌を回復させる方法を考え、持ち歩くアイテムを選びます。常に保湿して、化粧直しをするたびに肌が生き生きしていくべき。あれこれ重ねるのは、肌に負担でしかありません。私のポーチには、おやつケア」として、スキンケアになるものだけが入っています。肌にも喉の渴きを潤すのと同じように考えて、心身のエネルギーまでも高まるものをそろえています」

鶴岡さんの化粧ポーチの中身は、先の東日本大震災を機に、また少し変化があったのだそう。

「震災の時、スキンケアがなくて困っている話や、ふだん使っていたものでケアをしたいという女性の声を耳にしました。それを聞いて、緊急事態に備えて、肌と心を手当てするものを常備すべきだという思いを強くしました」

化粧ポーチは自分の身や健康状態を守るもの。その意識とラインナップが、美しい肌や表情へとつながることを、鶴岡さん自身の姿が物語っていました。

つるおか・えつこ 外資系の化粧品ブランドでスキンケア カウンセラーを二〇年以上務め、二〇〇八年、銀座にスキンケア カウンセリング専門のサロン「ひとやすみ」(☎03-5553-713322)をオープン。女性の生き方から指南してくれる美容講座なども開催している。